

名前 () 日づけ (/) できた数 (/28)

使い方 例文は十二本。声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。**この回の山=三つの型の見分け。****あらすじ**=受身は「～される」を表す句法。型は三つあり、動詞の上に字を置く型、「所」を使う型、動詞の下に字を置く型で、どれも書き下しでは「る・らる」を補って読む。ここでは中国古典の名文から、受身の形が見やすい短い一文を集めた。動詞の下に字を置く型は、同じ形でも受身にならないことがあるので、そこが最大のねらい目。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

一 信にして^①疑はれ、忠にして^②謗(そし)らる。二 匹夫(ひつぷ)^③辱(はづか)しめらるれば、劍を抜きて起つ。三 年四十にして^④患(にく)まらるれば、其(そ)れ終らんのみ。四 盆成括(ぼんせいかつ)^⑤殺さる。五 兄、^⑥尚書(しょうしょ)に召(め)さる。六 寡人(かじん)不祥にして、宗廟(そうびょう)の祟(たた)りを^⑦被(こうむ)る。七 ^⑧郷里の患(うれ)ふる所と為(な)る。八 吾(わ)が属(ともがら)、今に^⑨之(これ)が虜(とりこ)と為らん。九 衛(えい)の太子、^⑩江充(こうじゅう)の敗る所と為る。十 先んずれば^⑪即(すなは)ち人を制し、後(おく)るれば則(すなは)ち^⑫人の制する所と為る。十一 力を勞する者は^⑬人に治めらる。十二 通ずる者は常に人を制し、窮する者は常に^⑭人に制せらる。

語注 匹夫=身分のない、ただの一人の男。辱しむ=はづかしめる。侮辱する。患む=にくむ。きらう。盆成括=『孟子』に見える人名。齊に仕えて殺された。尚書=詔勅や文書をあつかう役所。ここはその長官(召し出した側)。寡人=諸侯が自分をへりくだって言う語。わたくし。不祥=不徳である。よくない行いがある。宗廟=祖先を祭るみたまや。祟り=神靈がくだす災い。被る=身に受ける。こうむる。郷里=ふるさとの村里。またそこに住む人々。患ふ=心配する。ここは「困りもの」としてもてあます。属=仲間。連中。虜=捕虜。生けどりにされた者。江充=前漢の武帝に仕えた人物。皇太子(衛の太子)と対立し、その失脚のきっかけをつくったとされる。力を勞す=体を使って働く。通ず=物事が思いどおりに運ぶ。窮す=行きづまる。※例文は中国古典の名文に見える一文を、受身の形が分かりやすいように短く取り出したもの。ここでは書き下し文だけを載せているので、白文の「見」「被」「為る所」「於」がどこに当たるかを考えながら解くこと。

漢文の受身

(1) ①「疑はれ」の読みを、現代仮名遣いのひらがなで書け。

(2) ②「謗(そし)らる」の意味を書け。

(3) ③「辱(はづか)しめらるれば」の「辱(はづか)しむ」の意味を書け。

(4) ④「悪(にく)まるれば」の「悪」は、ここではどういう意味か書け。

(5) ⑦「被(こうむ)る」の意味を書け。

(6) ⑧「郷里の患(うれ)ふる所と為(な)る」の「患(うれ)ふる」の、ここでの意味を書け。

(7) ⑨「之(これ)が虜(とりこ)と為らん」の「虜(とりこ)」の意味を書け。

B 句法・文法 (8～13)

(8) ①「疑はれ」のように、動詞の上に置いて「うる・ゝらる」と読ませ、受身を表す漢字を二つ書け。

(9) ①「疑はれ」に補われている受身の助動詞を、終止形で書け。

(10) ③「辱(はづか)しめらるれば」に補われているのは、①「疑はれ」の「る」ではなく「らる」である。その理由を書け。

(11) ③「辱(はづか)しめらるれば」の「ば」は、どのような条件を表すか。

(12) ⑧「郷里の患(うれ)ふる所と為(な)る」は、受身のどの型にあたるか。動作をする側をA、受ける動作をBとして、漢字と記号で書け。

(13) ⑭「人に制せらる」のように、動詞の下に置いて受身を表す字(置き字)を、漢字一字で書け。

C 主語・指す内容 (14～18)

(14) ⑤ 「殺さる」とあるが、殺されたのは誰か。書き下し文から抜き出せ。

(15) ⑥ 「尚書(しょうしょ)に召(め)さる」で、召し出されたのは誰か。

(16) ⑨ 「之(これ)が虜(とりこ)と為らん」で、捕虜にされるのは誰か。書き下し文から抜き出せ。

(17) ⑩ 「江充(こうじゅう)の敗る所と為る」で、江充に陥れられたのは誰か。

(18) ⑫ 「人の制する所と為る」で、制せられるのはどちらの側か。

D 口語訳 (19～22)

(19) ③ 「辱(はづか)しめらるれば」を含む例文二「匹夫(ひつぷ)辱(はづか)しめらるれば、劍を抜きて起つ。」を現代語訳せよ。

(20) ⑧ 「郷里の患(うれ)ふる所と為(な)る」を現代語訳せよ。

(21) ⑪ 「即(すなは)ち人を制し」・⑫ 「人の制する所と為る」を含む例文十を現代語訳せよ。

(22) ⑬ 「人に治めらる」を含む例文十一「力を勞する者は人に治めらる」を現代語訳せよ。

E 内容・記述 (23～25)

(23) ⑨「之(これ)が虜(とりこ)と為らん」と⑩「江充(こうじゅう)の敗る所と為る」は、どちらも「為」を使うが形が違う。何がどう違うか四十字程度で書け。

(24) ②「謗(そし)らる」は、白文では「被レ謗」で、この「被」が受身の助字にあたる。⑦「被(こうむ)る」の「被」とは、はたらきがどう違うか説明せよ。

(25) ⑬「人に治めらる」・⑭「人に制せらる」の「に」は受身の相手を表すが、同じ「動詞＋於＋名詞」の形でも受身にならないことがある。どう訳し分けるか説明せよ。

F 出典・故事・思想 (26～28)

(26) ⑪「即(すなは)ち人を制し」を含む例文十からできた、「何事も人より先に行えば有利になる」という意味のことわざを書け。

(27) ⑬「人に治めらる」を含む例文十一は、「心を労する者は人を治め、力を労する者は人に治めらる」という一節による。この言葉が見える書物の名を書け。

(28) ④「悪(にく)まるれば」を含む例文三は、孔子とその弟子たちの言行をまとめた書物の一節である。その書名を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①見・被は動詞の上。「る・らる」を補って読む。四段・ナ変・ラ変には「る」、下二段やサ変には「らる」。①疑はれ／③辱しめらるればの差はここ。②為A所Bは「AノBスルところトナル」＝「AにBされる」。Aが動作をしかける側。⑧⑩⑫で形をそろえて覚える。③「於」は下と主語を見る。下が人なら受身のことが多い(主語が「される側」かどうかで確かめる)。場所なら「～において」、比較なら「～より」。⑬⑭が受身の型。